



株式会社 城南村田 かわら版

2014年 7月号

# 蒲田交信局



いつもお世話になります。城南村田の青沼隆宏です。今回は一生懸命頑張ったことです。

さて一生懸命頑張ったこと。中学・高校時代はテニス部に所属しました。中学時代は多少頑張った気もしますが、結果が伴わず同時にやる気も失いました。大学では体育会テニス部に入部しますが、数ヶ月しか続きませんでした。入部した動機が不純でした。「テニスが好き」で入部した訳ではありませんでした。「体育会の方が格好良いし、就職にも有利そう」そんな理由でしたから。体育会テニス部を辞めた後、簿記の勉強を始めます。きっかけは父に社長業に必要な知識は何かをたずねたことです。父の答えは数字でした。これは本人が数字を苦手としていたからではないかと思えます。そんなきっかけで始めた簿記でしたが、意外に面白く、大学時代を通して経理系の勉強をすることになります。しかし、ここでも挫折しました。最初は日商簿記の勉強でしたが、その後会計士の勉強を始めました。ここで挫折。方向を変えて税理士の世界へ。簿記論・財務諸表論までは問題なく進みましたが、税法科目で挫折。ちょうど大学時代も終わり社会人となります。社会人になり「勝負はこれから」だと思い直し、仕事を始めますが、1年目の評価はマイナスでした。2年目からは評価はプラスへ転じたものの、丸2年たってプラス・マイナス0といったところでした。その後2年間勤め、渡米しましたが、20代後半までは本当の意味で頑張ったことなど無かった気がします。

一番頑張ったのは、やはり我が社が倒産しそうになった12年前でした。再建案を作り、仕入先・金融機関を走り回り、みんなと協力して再建を進めました。この時は「頑張った」と言えると思います。頑張るために大事な事は、よく我が社の新人にも「素直」が一番大事だといいますが、「素直」であることだと思います。若いときは理屈っぽく、素直ではありませんでした。勉強も足りない、経験も足りない。そんな人間が考えたって良い結果は出ません。やはり素直に先輩の言うことを聞き、頑張ること。理屈ではなく「やるか」、「やらないか」を決めること。年を重ね、もっと素直になり、決めて迷いを捨て、頑張る人生を送りたいと思います。



株式会社 城南村田 かわら版

2014年 7月号

# 蒲田交信局



いつも大変お世話になっております。営業部の浅野です。夏に向かってだんだんと暑さが増してきて、自転車通勤には厳しい季節がやってきました。今回は”失敗して忘れられないこと”についてです。

（株）城南村田に入社して（当時は株）城南洋紙店でした）、営業部に配属になり、紙の事も少しは分かるようになってきたかな？という時でした。

お客様から「サンプルが有るので、紙を調べて欲しい」と依頼があり、訪問してサンプルを預かり、社に持ち帰って調べました

一見したところ、クリーム色の A3 位の大きさの紙。用途もなにも確認しないで色上質紙（チラシ等によく使われる紙です）を提案しました。

今考えれば、多少分かってきた時期が一番危ないのですが、その頃は初めての営業職というのも有り、功を焦っていたのかもしれない。

「色も近いし、紙の厚みもほぼ同じ。大丈夫！」と安易な考えでした。

話はトントン拍子で進み、受注から納品まで完了しました。

二週間位たったある日、先日のお客様から、「納めた紙でトラブルになっている」との連絡があり、急いで駆けつけました。

そこにはファイルの表紙に加工された、先日の色上質紙クリームが有ります。手にとって見たら、ペラペラで“コシ”が無く、ファイルとしては使えそうにありません。もう一度サンプルを調べ直してみると、「色カード紙のクリーム色」でした。

すぐに商品入れ替えになり、お客様はもとより方々に迷惑を掛け、上司からはきつく絞られ、かなり落ち込みました…。

それ以降は「現品確認」「分からない所は聞く」を基本として、営業活動をするようにしています。

その後お客様からは定期的に「色カード紙」の注文も入るようになりました。その後は懇意にして頂き、印刷の分からない事なども教えて頂きました。その印刷会社さんが主導で、関係各社さんと箱根旅行があり、声を掛けて頂きました。あじさい鉄道で行ったのは良い思い出です。

慣れた頃が一番危ない。よく言われる事ですが、身をもって体験しました。